

令和5年度一関市農業技術開発センター運営委員会 会議録

- 1 会議名 令和5年度一関市農業技術開発センター運営委員会
 - 2 開催日時 令和5年11月8日(水) 午前10時から午前11時30分まで
 - 3 開催場所 北部農業技術開発センター
 - 4 出席者
 - (1) 委員 平淵英利委員(委員長)、加藤幸助委員、
後藤忠行委員(代理:石川公司氏)、佐藤正弘委員、
千葉健司委員、小島幸喜委員(副委員長)、佐藤幸子委員、
佐藤洋子委員、千田広子委員
 - ※欠席委員 千葉守委員、佐藤真樹委員、遠藤健志委員、大越留美子委員、
小野寺勝義委員
 - (2) 事務局 渡邊晋農林部次長兼生産流通課長兼農業技術開発センター所長、
日下昭二生産流通課畜産園芸係長、
佐藤圭一生産流通課主査兼農業技術開発センター主査、
千葉広南部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
山崎裕也南部農業技術開発センター農業技術員、
佐藤克朗北部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
佐藤尚志北部農業技術開発センター農業技術員、
佐藤正彦北部農業技術開発センター事務補助、
齋藤哲也南部農業技術開発センター主任主事
- 5 議 題
 - (1) 令和5年度主要事業の取組状況について
 - (2) 令和6年度主要事業の取組計画について
 - (3) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0名

8 渡邊晋農林部次長兼生産流通課長兼農業技術開発センター所長挨拶

一関市農業技術開発センターは、旧花泉町と旧大東町で合併前に設置し、運営されてきた。2つのセンターを平成23年度から運営統合して、一関市の農業技術の研究や土壌分析などを通じて農業振興に寄与している。

現在の取組を申し上げますと、花泉町にある南部農業技術開発センターでは西洋野菜の産地化に向けた取組を継続し、地域おこし協力隊と連携しながら生産

組織の立ち上げや生産から流通、販売までの一連の仕組みづくりを進めている。

本日会場となっている北部農業技術開発センターでは、有機農業推進のために一関地方有機農業推進協議会の運営の支援をしている。

市としては、昨今の国際情勢の影響により、原油価格や資材価格等の高騰の影響を受ける農業者の生産及び営農継続に対する支援に取り組んでいるところであり、農業技術開発センターでは肥料価格の高騰による生産コストを抑えるため土壌分析診断を行い、その診断結果に基づいた肥料設計という面で支援している。

本日は、今年度取り組んでいる主要事業の取組状況と、令和6年度の考え方や取組についてご提案させて頂くので、委員みなさんのそれぞれの立場から率直な意見をお聞かせ頂き、両センターのよりよい運営に繋げてまいりたい。

9 審議内容

(1) 令和5年度主要事業の取組状況について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 有機農業における除草効果の実証を行うためアイガモロボを借りたが、除草効果を高めるための代掻きを均平にできなかったことが、期待した効果が見込めなかった要因でもある。

委員 園芸の生産部会を中心に毎年土壌分析していただき、感謝申し上げます。

肥料価格が高騰する中で、土壌分析に基づく肥料低減は、かなり注目や期待をしている部分があるので、今年度以降も引き続きご協力をお願いしたい。

委員 土壌分析は何点まで処理可能か。

事務局 土壌分析診断業務の繁忙期を迎える前に、農業改良普及センター、JAと打合せを行っており、その際にも分析依頼点数が例年より増える予想となったが、週に120点の分析を予定している。

分析より、土壌からの成分抽出及び機器の洗浄に時間を要するが、可能な限りご要望にはお応えしていきたい。

委員 有機農業「田んぼの学校」には、どの地区から参加される方が多いか。有機栽培に関心のある親御さんは、都市部から移住してきた方が多いので、そういった方々を対象としているのか。

事務局 大東町の大原小学校と大東小学校が8割で、藤沢、室根の小学校からも1、2名ほど参加者がいる。

委員 将来的に家を継いでもらったときに、有機農業をしてもらいたい人が対象か。

事務局 将来の担い手も含めてというのもあるが、農作業の機会がないので体験させたくて参加させている親御さんもいる。

委員 田んぼの学校は平成 18 年度から行っている。

平成 20 年度から一関地方有機農業推進協議会の主催で行っている
ので、市内全域から参加してほしい。

大東町の大原小学校が会場なので、一関地域や平泉町の方は遠い。
1 年おきに一関地域でもやってみていいのではと感じている。

委員 小学校の子どもを持つお母さんたちに、もっと知ってもらいたいとの思いから質問した。

委員 大東町が会場だと、西からの参加者が少ないと思うが、良い取組なので、参加者の募集方法を検討する必要があるのではないか。

事務局 現在は、市のフェイスブックや大東町内の小学校に直接チラシを配布し、参加者を募集している。次回の開催に向けて、募集方法について検討する。

委員 西洋野菜の取組を進めているが、本業の品目があり西洋野菜の取組を拡大出来ないでいる。生産量が少ないと需要に対して供給が追いつかない。地域おこし協力隊と連携し、西洋ねぎのリーキの生産体制の確立に向けて取組を進めており、引き続き市のフォローをお願いしたい。

委員 リーキの需要があるということだが、市内近郊のレストランからか。

事務局 首都圏の飲食店のほうが需要としてはある。首都圏への流通コストが課題となっている。卸業者は量が必要となってくる。

委員 西洋野菜のレシピ作成や料理教室などをさせていただいた。食を楽しむというレベルで需要は確かにある。平泉町の道の駅で販売補助をさせていただいたが、都会の人たちの方がリーキの認知度が高く、都会で高価なものが 200 円から 300 円で購入できることから、観光バスで来た方が大量に購入していくことがあった。興味のある人たちが来る場所で販売するくらいの生産量はあるが、産地となると体制が違ってくると思うので難しい。

委員 一関の農業祭でのリーキ販売は、今年で 2 年目である。昨年より売れ行きが好評で、認知度が高まっていることを実感している。

(2) 令和6年度主要事業の取組計画について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 有機米の学校給食への提供について、全国では3自治体で有機米の通年利用を行っている。現在の生産量では通年利用は難しいが、提供回数を増やしていけるように取り組みたい。

委員 市民向けの講演会を行いながら消費者にPRする取組を進め、販売にあたっては農産物アンバサダーの方々の協力もお願いしたい。

委員 交付金を活用した事業ということだが、交付金に頼る取組ならやらないほうがいい。本当の有機農業を知る人たちが取り組めばいいだけであり、交付金を使って広めることはしなくていいと思う。

委員 小菊の有望品種選抜について、今年は例年になく高温による被害が見受けられたことから、高温対策に適した品種、品目の選定試験をお願いしたい。

委員 秋田県の小菊メガ団地を視察したところでは、電照技術を活用し開花期の調整を行って生産を伸ばしているところがあった。

10 担当課 農林部農業技術開発センター